**2021年度　評価項目の達成及び取組み状況**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自己評価表　　（教職員） | | |
| 区分 | 内容 | 理由及び今後の課題 |
| 保育の計画性 | ・園の教育理念や教育方針を理解している。  ・教育要領・教育課程・幼児の実態などをもとに考えて指導計画を作成する。  ・指導計画は総合的な活動ができるように考慮して作成する。  ・楽しい雰囲気の中で安定して遊びこめる環境構成をする。  ・自分の保育と計画の評価・反省を行ない次の保育と計画に活かす。  ・日々、健康と安全に対する配慮を行ない、気付いた場合はすぐに報告し、対策を立てられるようにする。  ・一人ひとりの幼児をよく観察し個々の発達の姿や課題について見通しを持つ。 | ・今年度も、前年度同様コロナ禍の中、子どもたちのことを考えて保育を計画してきた。  ・子どもたちのことについて、教職員で共通理解に立つことができた。最後の縦割り保育ということで、３人体制でクラスを運営することができた。  ・無料開放では、場所を駐車場や、園庭の使える時期を利用して行われた。隣接する教会を使うことができたのは、感謝です。 |
| 保育の在り方・幼児への対応 | 幼児のことばによく耳を傾けるとともにわかりやすく聞き取りやすい語りかけ方をする。  ・幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方をする。  ・園すべての幼児について理解を深め、指導上配慮を必要とする場合は共通理解を持って対応する。  ・自分のクラスだけではなく他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うことにより、幼児自らが一人ひとりの違いを理解し認め合いながら生活できるように配慮・助言する。 | ・預かり保育、未就園児保育共に、大きな事故もなく健康に過ごすことができました。  ・自分の思い、SOSをだせるこどもであってほしいという願いを、教師一同共通理解にたち、声をかけてきた。  ・預かり保育時、人数が多くなり、場所を考えながら、時間を過ごした。  ・ひとりひとりが、すきな遊びを選び取り、集中できることを大切に見守りました。  ・各担任や、こどもたちの一日のなかで、必要な引継ぎは大事にしながら、連携をもつように努めた。  ・満３歳児の受け入れをそれぞれのクラスで対応してきた。異年齢でのクラスでうけいれられ、こどもたちも安心してすごしていた。 |
| 教師としての資質や能力・良識・適正 | ・保護者との信頼関係を作る為の努力をしている。  ・仕事の手順を考え、能率よく行う努力をする。  ・組織の一員として教職員全員でひとつのチームであることを意識している。  ・教師として幼児と共に生活することを楽しみ、幼児の成長を心から喜ぶことができる。  ・幼稚園や幼児のことだけでなく自然や社会のできごとにも興味を向けている。 | ・保護者に対しては、子どもの様子をてがみや、電話、小さいメモをはさめたりしながら、伝えてきた。  ・新園舎建設などの工事の時期もあったが、次年度への期待と楽しさで忙しいひびだったが、協力しながら過ごせた。  ・自分だけでなく、家族の健康管理も重要な一年であった。 |
| 保護者への対応 | ・クラスや子どもの様子、自分の考え方、保育のポイント等をクラス便りでわかり易く伝える。  ・個々の子どもの様子を伝え園と家庭で成長を支える為の共通理解をもつことができる様に努める。  ・保護者からの様々な意見については園長等に報告相談する。  ・守秘義務を遵守する。 | ・みょうじょう５８のおたよりを、週一回配布してきた。月末には、担任から、子どもたちへ、保護者へのメッセージを送っていた。担任たちは、時間のないなか、心をこめて書いていた。保護者の反応は、それぞれで、一度も返事を書いて下さらない方もいたので、教師のモチベーションが上がらない時もあったように感じる  ・ＺＯＯＭでの懇談を開催することができたが、学年別の懇談は、年長のみだったのは、残念であった。  ・コロナ禍で園内の様子をみてもらうことが難しかったが、親子遠足以外の行事は、どんな形であれ、行うことに努めた。  それは、保護者の方々にとっても楽しみの一つであったと思う。  ・保護者対応としては、親教育というところも学んでいかないと難しいところがあると感じている。 |
| 地域の自然や社会との関わり | ・地域の自然や主な施設の場所交通機関についてある程度理解している。  ・地域の小学校の行事や公開授業に関心をもつ・地域開放や子育て支援のあり方について関心を持つ。 | ・地域の方々には、いつも声をかけていただき、子どもたちの成長を見守ってくださっていることを感じることができた。  ・子どもたちが元気に過ごしている姿を通りから見て、元気をもらっているとおっしゃっていたのが、印象的であった。  ・なかなか交流までできなかったが、できないで終わってしまうのではなく、違う形でも交流できる体制を、経験ができたらよかったと思う。 |
| 研修と研究 | ・研修会や研究会には自己課題を持って進んで参加している。  ・指導計画の作成や記録の取り方について研究を行なう。  ・アレルギー、自立の遅れなど子どもを取り巻くさまざまな状況について理解を深める。 | ・研修会への参加は、難しかったが、オン来での研修をうけることができた。  ・アレルギーのお友達もたべられるおやつを探すのがとても困難であった。多様なアレルギーに対応するのが、年々むずかしい。 |